令和８年度　第１回碧南市環境審議会　会議録

日　時　令和８年１０月２９日（木）午後１時３０分～午後２時２０分

場　所　碧南市役所　７階　議員大会議室

出席者　長田　和徳、長田　和久、鶴田　光久、杉浦　武、角谷　信二、長田　康弘、
黒田　昌司、杉浦　龍一、片伯部　裕樹、神谷　昌明、太田　一馬、石川　茂敏、
神谷　葉子、竹原　幸子、鈴木　俊行、加藤　伸、鈴木　君子、増田　元保、
高山　芽衣

欠席者　磯貝　政男（２０名中１９名出席）

事務局　杉浦　英樹、中川　知之、鈴木　章宏、加藤　徹、野澤　武司

傍聴者　１名

１　あいさつ

(1) 市長あいさつ

(2) 会長あいさつ

２　議　　題

(1) 令和７年度における環境の状況及び第３次碧南市環境基本計画の進捗状況について（報告）

【環境の状況に関する報告書ダイジェスト版】

１　大気の状況

二酸化窒素（NO_2）、浮遊粒子状物質（ＳＰＭ）、光化学オキシダント、大気中ダイオキシン類については過去からの推移を含め、環境基準に適合している。

２　水質の状況

「健康項目」について、全ての地点で環境基準を満たしている。「生活項目」については、油ヶ淵（湖沼）のＣＯＤに関して環境基準に適合していない。

３　騒音の状況

市内８地点を２４時間測定する環境騒音及び、市内の主な幹線道路を概ね５年間で市内１０地点を測定する自動車騒音について、ともに過去からの推移を含め環境

基準を満たしている。

４　公害苦情件数

令和７年度で５４件の苦情があった。最も多かったのは大気汚染に関するもので、その中でも、野焼きによるものがほとんどである。

５　碧南市地球温暖化対策実行計画（区域施策）

(1) 温室効果ガス排出量の削減目標

令和４年度に温室効果ガスの削減目標を国の目標に準じて、平成２５年度を基準年度として、令和１２年度に碧南市内のＣＯ２排出量を４６パーセント削減することを目標と定めた。

(2) 温室効果ガス排出量の現況

令和５年度の碧南市温室効果ガス排出量は７３４千ｔ－ＣＯ２で、基準年度である平成２５年度対比３０．０％の減少となった。

６　碧南市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

碧南市役所の令和７年度の温室効果ガス排出量は１１，１２８ｔ－ＣＯ２で、基準年度である平成２５年度対比１７．６％の減少となった。削減に向けた具体的な取組として、照明設備のＬＥＤ化や庁用車の次世代自動車への転換を今後も進めていく。

質疑応答

委 員 Ａ：　市役所で様々な補助金を出しているが、どの程度の削減を目標にしているのか。一般家庭でどの程度削減を目指しているのか。

また、4ページのグラフで、温室効果ガスの排出量の経年変化があるが、産業部門だけが減少しているが、それ以外の部門が減少していない。なにか対策はあるのか。

事 務 局：　数値目標として掲げるのは難しいが、市役所、事業所、市民皆様一体となって取り組んでいきたい。補助金の充実をしていき、企業、市民の皆様と二酸化炭素の削減を目指していきたい。

委 員 Ａ：　市は二酸化炭素の４６パーセント削減の目標を立てるが、産業部門にしても一般部門にしても、どのように達成をしていくのか。

事 務 局：　具体的にこれを行ったら何パーセント削減できるというような施策はな

いが､皆様方のご意見も伺いつつ､進められる取り組みを進めていきたい。

委 員 Ａ： 油ヶ淵の水質の問題で、碧南市だけではなく、近隣市での取り組みも必要だと思うが、どのようなことをおこなっているのか。

事 務 局: 愛知県､安城市､西尾市､高浜市とも連携をして取り組みを進めている。例えば、農業では代掻きを行わない田植えの方法を行うことで補助金を出していたり、下水道の普及への取り組み、水門の開閉によってヘドロを排出する取り組み、ヘドロの浚渫などを行っている。

委 員 Ａ： 昔はコークスを用いて鋳物を溶かしていたが、今は電気炉によって電気で溶解している｡電気の作り方次第で二酸化炭素の排出量が決まってくる。鋳物業だけを悪者にされても困る。鋳物業も大事な産業であるので、市役所でもバックアップしてほしい。

事 務 局： 二酸化炭素の削減も大事であるが、産業の発展も大事である。どの業種が悪いとかではなく、行政、企業、市民の皆様全員で協力して削減に取り組んでいきたい。

委 員 Ａ： 今、碧南市は二酸化炭素排出ゼロの市になっているのか。

事 務 局： 令和５年２月にゼロカーボンシティ宣言をしている。

委 員 Ａ： なぜ宣言をするときにこのような審議会に諮らなかったのか。また二酸化炭素排出をゼロにすることはできないのではないか。

事 務 局： ２０５０年度を目標にして、二酸化炭素排出ゼロを国も市も目指している｡二酸化炭素排出ゼロというのは､排出と吸収を差引ゼロということで、排出しないという意味ではない。

委 員 Ａ： 田んぼや木を植えるなど吸収を増やす施策を行うのが良いのではない。

事 務 局： 碧南市だと山林には恵まれていないので、農地、緑地の確保は重要であると考える。

(2) その他（委員改選について）

皆様方の任期は令和８年１１月３０日までとなっており、次回改選については、近隣市の状況も参考にしつつ、メンバー構成の見直しを行っていきたい。また、引き続き公募は行っていき、１１月２日から広報、ホームページで公募を行っていく。

質疑応答

委 員 Ａ： 是非、JERA さんにもオブザーバーでもいいので参加してほしい。電気事

業者として、この会議の意見も聞いてほしい。

事 務 局：　ご意見を参考にさせていただき、検討したい。